令和 3 年度第 3 回アーバンデザインセミナー実績報告書

1. 開催日時

令和 3 年 8 月 18 日（水）　18 時 30 分～20 時 00 分

参加人数: UDCBK での視聴: 6 名、オンライン: 11 名＝計 17 名

※オンライン会議システムと UDCBK のオープンスペースでの視聴を併用

2. テーマ

「駅前の魅力的な空間づくり～学生による南草津の西口駅前広場と幼老複合施設の演習成果発表～」

- UDCBK では、昨年度、「都市と交通」プロジェクトにおいて、20 年後の南草津のまちづくりについて、市民の皆さんと一緒に考えるワークショップを開催し、シナリオを作成した。今回のセミナーでは、立命館大学の阿部俊彦氏を講師に迎え、昨年度の「都市と交通」プロジェクトを踏まえ、未来の南草津駅周辺の魅力的な空間について考えていく。また、大学で取り組まれた南草津駅西口を対象敷地にした建築および広場の設計課題の優秀作品の発表も行う。

3. 話題提供者

- 阿部 俊彦 氏
  立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授
  アーバンデザインセンターびわこ・くさつ 副センター長

4. 話題の概要

(1) 阿部氏による講演

- 立命館大学建築都市デザイン学科 3 回生の二つの演習課題の発表（10 作品）を行う。一つは、南草津駅西口のロータリーの形を広場のように少し変えたとしたら、駅西口はどうなるかという提案である。もう一つは、仮に西口広場に隣接してちょっとした敷地があったとしたら、どのような複合施設があればよいかというものであり、保育園や老人福祉などの複合機能のものや、住人が暮らしやすくなるための機能について提案する。
- 昨年度は、「都市と交通」プロジェクトで皆さんとワークショップをして 20 年後の南草津のことを構想した。そのことに関連し、駅前広場のことも考えた。今年、「南草津ビジョン」が策定されたが、ビジョンの中にも南草津駅前のにぎわいづくりや歩行者・自転車の安全性について書かれている。そのようなことを具体化していこうとする中で、学生の提案が何かのきっかけになるのではないかと思っている。

- 新型コロナウイルス感染症が拡大し、まだ平常時に戻れる状態ではない中で、屋外空間の活用が進むのではないかと言われている。例えば、ニューヨークでは道路をテラス席のようにしたり、公園でコンサートがなされたりして、屋外での活動が推奨されている。日本も新型コロナウイルス感染症に対応するための沿道飲食店等のテイクアウトやテラス営業などの路上利用に伴う道路占用許可の基準を緩和するなど、様々な社会実験が全国で行われている。必ずしも新型コロナウイルス感染症がきっかけになったわけではないが、それによってさらに道路の在り方が変わりつつある。
- そのような社会状況の中で私たちが暮らしている南草津駅前の屋外活用状況はどうなっているのか、学生と一緒に見回してみたが、正直言ってあまり変化はない。そこで、ライフスタイルの変化の実験として、研究室の学生が駅前広場でキャンプのようなことをしたりフリスビーで遊んでみたりして、こういったことがどこまでできるのか試してみた。
- 南草津駅西口には駅前の広場に加えて公園もある。公園は皆が公共空間として色々なことをしてもよい反面、一般的に様々なルールがあり、実はあまり使い勝手が良くないということもある。ニューヨークのセントラルパークは結構活用されているようだが、コロナ禍において日本の公園の屋外利用が進んでいるかというと、都心部の方は活用できているかもしれないが、南草津駅の辺りの公園はあまり利用されていないのでどうしたらよいのだろうかと考えている。
- 例えば、愛知県の豊田駅前では使っていないスペースを借りて各自の責任でバーベキューやスケートボードができる自由な場所として提供されている。南草津でも使われてないのであれば利用を促進するためのルールを決めてシェアして利用できれば、使い勝手の良い面白い駅前広場になるのではないかと思っている。
- また、アフターコロナにおいて駅前拠点の重要性が高まるということも言われている。これまで人口が減ってく中で中心部に集約していくというコンパクトシティの話がされていたが、働き方が変わって毎日通勤しなくてもよいのであれば、もう少し駅前で過ごすということも考えられる。
- フランスのパリでは、15 分間で自転車や歩行者が歩ける範囲で過ごせる暮らせる都市を目指そうとしている。また、新型コロナウイルス感染症によって三密回避で地方への移住が進むのではないかとも言われている。今、草津市は人口が増え続けているが、単純にどんどん増えていくわけではなく、このまちに何か特徴があって面白いとか過ごしやすいと思えると、人はそこに移住してくるわけなので、これからそのあたりをどうしたらいいか考える必要はある。
- 現在、南草津駅前の整備は 20 年くらい経過し変革期にある。駅前に求められる機能は変わってきている。本日はその辺りのことを踏まえて、学生が色々な提案を考えてきているので、それを皆さんに見ていただいた上で議論をしていきたいと思っている。なお、広場の演習課題の条件として、ロータリーと水を供給するための円形分水

工は必要なものとしている。あとは基本的には自由に提案している。

(2) 学生による演習成果の発表

ア. 南草津の西口駅前広場

（ア） 1 作品目

南草津駅周辺は学校や塾、住宅が多く、たくさんの人々が行き交う。その一方で広場のような空間が少ないと感じた。昔、南草津は交通の要衝であったので、そのことが駅前の回遊性

の少なさに繋がっているのではないかと思う。そこで駅前に拠点性のあるような空間をつくることで、生物にとっても人間にとっても憩える場所となり、南草津が生まれ変わるのではないかという提案をした。広場のエントランス部分に大きな池を設け、その池の周りにヨシを植える。ヨシというのは琵琶湖の東側に生えているが、ヨシの生息するところには豊かな生態系が形成されている。この広場ではヨシの浄化作用によって水の浄化を図ることができるのではないかなと考えた。また、琵琶湖ではヨシ刈りというものが行われているが、それを南草津で行うことで周辺の住民の自然への意識の向上を図ることもできるのではないかと考えた。円形分水工の利用に関しては、円形の特徴を用いて片側には落ち着きのあるデッキを設け、もう片側には芝生広場に遊具化された開かれた空間を設けた。真ん中にある噴水広場ではイベントの際に利用できるように、割合、自由度の高い空間を設定した。その他、憩いのデッキや展望デッキでは、人々がそれぞれの居場所を自分で選択していられるような空間とした。

1 作品目への講評など:

阿部氏: 南草津駅に分水工があるのは皆知っていると思うが、駅を降りても水を感じられないので、ここにもう少し水辺の空間があって琵琶湖と繋がっていることが分かるような仕掛けを作ろうと考えたところが重要なポイントである。

発言者 1: 広場の池などの水源はどこにあるのか。

学生 1: 円形分水工は琵琶湖から引いているが、池の水源は分水工から引っ張ってきてヨシの浄化作用で再利用することを考えた。

発言者 2: 模型全体の構想について説明をいただきたい。

学生 1: 駅のエントランス部分に関してはセキュリティの意味もあり全体的に少し下げるような形になっている。下げることで分水工の存在感を出し、ロータリーと広場の分かれ目に境界を作った。二階の展望デッキに関しては、駅からのコンコースを延長した形をつくることで、琵琶湖の奥の比叡山まで見えるようなデッキを作ればよいのではないかと考えた。

発言者 2: 展望デッキは実際の場所において構図として非常によいと思う。反対側に線路が走っていると思うので、子どもたちが電車を見られるデッキもあると面白いと感じる。

（イ） 2 作品目

コンセプトとして、電車で大阪・京都方面から滋賀に来る時の車窓の風景が、都市部の建物がいっぱい立っている風景から田んぼが広がるような風景に変わるということを駅前広場に表現しようと思ったのがきっかけである。円形分水工には琵琶湖の水を農業用と生活用に分けるという機能があるが、本来は田んぼから流れてきた水を多方面に流すという役割があり、それをここで再現しようと考えた。この円形分水工を中心に田んぼがだんだんと広がっていく形に設計することで、都市から田園に変化していく風景のギャップを表現した。もう一つのプログラムとしてリズムというものを考えており、一つ目は自然のリズムである。田んぼの風景と、それに伴うアクティビティが繋がった四季の自然のリズムというものを考えた。もう一つ、人のリズムというのも無視するべきではないと思った。人のリズムの象徴として駅前で電車が時間通りに来るということ、それが人のリズムを示す最たるものだと考え、駅の電車が通る側の部分に香りの高いジンチョウゲなどの植物を植えて電車が来る時の風圧で広場に香りを流すという形にした。四季のリズムを「自然」と「人」の両方で感じられるようにと考えた。

2 作品目への講評など:

発言者 3: 田んぼの風景を駅前に持ってくるという発想が非常によかったと思う。冒頭に車窓の風景を駅前広場に表現するとあったが、駅前広場を車窓から見た時どう

見えるかとういう点について資料で分かるものはあるか。

学生 2: 車窓からの風景ではないが、ポスターの中の模型写真で駅から降りたテラス方面からの風景を見ることができる。

阿部氏: 質問いただいた車窓から見えるイメージというのはとても重要で、姫路市などもそれを意識して駅前を整備し直したと聞いている。車窓から見える降りたくなるような風景というのも今後考える上ではポイントになると思う。先ほどの提案にもあったが、駅前に水辺の風景があるだけでも全然印象が違うと思う。

（ウ） 3 作品目

南草津はここ数十年で急激に都市化している。その理由として立命館大学や企業が参入し、それらに関連した人たちが住むことによって機能的な都市が形成されていったのだと思う。とても便利なまちだと思うが、一方で南草津としてのアイデンティティみたいなものが失われてしまったように感じており、その個性を取り戻そうということから発想した。地域の色々な郷土史を調べている中で気づいたのが、和歌や短歌など文学的な資料が多い。そこで歌枕にも詠まれた萩の玉川の風景を機能的な空間である駅前に持ってくることによって、南草津の都市としての個性を取り戻すことができるのではないかと考えた。広場では萩の玉川の短歌に表現された四季の風景を現代風に再構築した景色が見られるようにと考えた。まず駅の出口部分に大きなブリッジをかける。円形分水工を盛り土して、それを山に見立て

ている。広場全体に高低差を付けているので、低い位置から山越しに月を見上げたり橋から池に映る月を眺めたり、様々な視点から景色が見られるようになっている。日本庭園を参考にして設計を考えた。

3 作品目への講評など:

発言者 4: 円形分水工を盛り土することによって法面が緑化されて広場の中で馴染んでいくようなデザインになっているのがすてきだなと思った。斜面ができると、そこで子どもたちが遊んだりする風景が想像できる。駅前に緑豊かな公園のような場所ができるのは非常によい提案だと思うが、もう少し面白みがあるとよいと感じた。

阿部氏: 基本的に駅前広場というのは風景を作るという視点ではなく効率性や安全性で設計されている。これからの時代は文化的にも価値があるというような考え方に発想が変わってくると思う。

発言者 5: 先ほど和歌や萩の玉川の話があったが、それに絡めて公園全体の緑の部分について芝生にするのか花を植えるのかなど、もう少し植栽のコンセプトというものがあってもよかったのかなと感じた。

学生 3: こちらは『作庭記』にある日本庭園の造り方を作成した。エリア別に様々な種類の植栽計画をしていて、季節ごとに憩いのスペースの植物が変化していく面白さも考えている。

（エ） 4 作品目

歩くという体験をコンセプトに考えた。南草津駅は滋賀県で一番乗降客数が多いが、大半の人が通り過ぎてしまうというのが現状である。広場があっても人が留まらない。駅前広場を歩くことで人がまちに流れるのではないかと考え、まず歩く体験を楽しんでもらおうと設計した。広場はにぎわいを楽しむ道と静けさを楽しむ道という意味のある二本の蛇行した道で構成した。道を蛇行させることで風景が徐々に現れ、前へとかき立てられるようなワクワク感を人々に感じてもらえるようにしている。広場の中に溜まり場は必要と思い、にぎわいの道にはにぎわいを再現するステージや波を表現した空間を作ることで子どもたちなどが遊んでいる中でにぎわいを感じながら道を歩くことができる。静けさを楽しむ道には、水のせせらぎを聞きながら留まれる空間や池の淵に京都鴨川の河川敷のような溜まり場を作る。にぎわいと静けさ、それぞれの人の気分や状態に合った道を選んでもらえるようにした。西側の店舗前広場は、コンビニ、銀行、ホテル、保育園、カフェ、マンションなど使用時間や頻度が様々で幅広い年齢層が利用する。現状は道が一本通っている向こう側に建物があり全てが混じった状態になっているが、芝生や木を植えて段差を作ることによって、それぞれの空間に合った使い方ができるようにしている。

4 作品目への講評など:

阿部氏: 普通は駅前広場が先にあってその周りに建物ができていくが、今回の提案は、逆

に駅前広場を周りの建物の基準に合わせていくという発想が面白いと思う。もし駅前広場がリニューアルするとなったらそういう順番になると思うので、そのような方法としても参考になる作品だと考える。

発言者 6: 模型で見ると地面を掘り下げているところが斬新だなと感じた。現実的に考えると大雨が降ったときの対処などが必要だと思うが、高低差を付けて円形分水工を目立たせる手法は面白いと感じた。

（オ） 5 作品目

南草津の歴史について調べてみると、近江の地について詠われた近江百人一首の和歌があった。月の光が水に反射してきらめく、そのような和歌の情景を再現して人々の生活にそっと寄り添う落ち着いた雰囲気の光の空間を目指した。日本とヨーロッパの広場の歴史を比較してみると、日本は道幅を広くとった「道の広場」で、ヨーロッパは道が細くて空間を大きく開けた「場の広場」になっている。今回の提案では、それらを組み合わせることで道でありながら自然と人が集まるような「溜まりの広場」を意識的に作った。この溜まりには一日のアクティビティとして読書をしたり月を眺めたりできるデッキなどの空間がある。また、月は 29 日周期で満ち欠けがあり光の強弱が変化して見えるが、広場の水辺周辺に街灯を設けてその光が月の強弱とリンクして変化することで、季節の移り変わりを感じることができる。駅は人々が毎日利用する場所である。日々の生活の中で歩いていて、今日は光が

強いなと思い空を見ると満月があるというようなことを自然と感じられようにした。草津市の木であるキンモクセイや市の花であるあおばな等を植栽することで、一年を通して変化を感じながら毎日楽しく過ごせる広場を目指した

5 作品目への講評など:

阿部氏: 駅前で夜景や月明かりを感じられるくらいだと広場の照明は相当照度を下げないといけないが、全部を暗くするのではなく部分的に月明かりも感じられるような場所を作るのはよい考えだと思う。駅前の照明は安全性のために光りすぎている印象があり、リニューアル時には照明も丁寧に工夫する必要があると思う。

イ. 南草津駅西口における幼老複合施設

（ア） 6 作品目

南草津のまちの問題点として、学生のまちでありながら、地域と、その学生との交流が乏しいことが一つ挙げられるのではないかと思う。この幼老複合施設には、保育園、児童館、老人ホームがあるが、その幅広い世代の交流を結ぶかけ橋として、この施設内に学生サークル室を設けようと考えた。そのサークルの活動の拠点としてこの施設を利用することで、世代を超えた交流をより活性化させて、南草津の駅にふさわしい施設にすることを目指した。三つの施設を L 字型になじむように配置して、その間に人々の生活動線がある。また、サー

クル室内で、例えば、保育園と学生であったら音楽サークルが歌を教えたり、図工をしたりする。また、老人施設と学生との関わりであれば、歴史などを学んだり、児童館と学生であれば、絵画サークルなどの交流があったりする。それらの交流の成果物をギャラリーの中に展示することで、地域の人もこの施設の繋がり、またそれも生活動線としてこの施設自体が、まちになじんでいくのではないかと考えている。

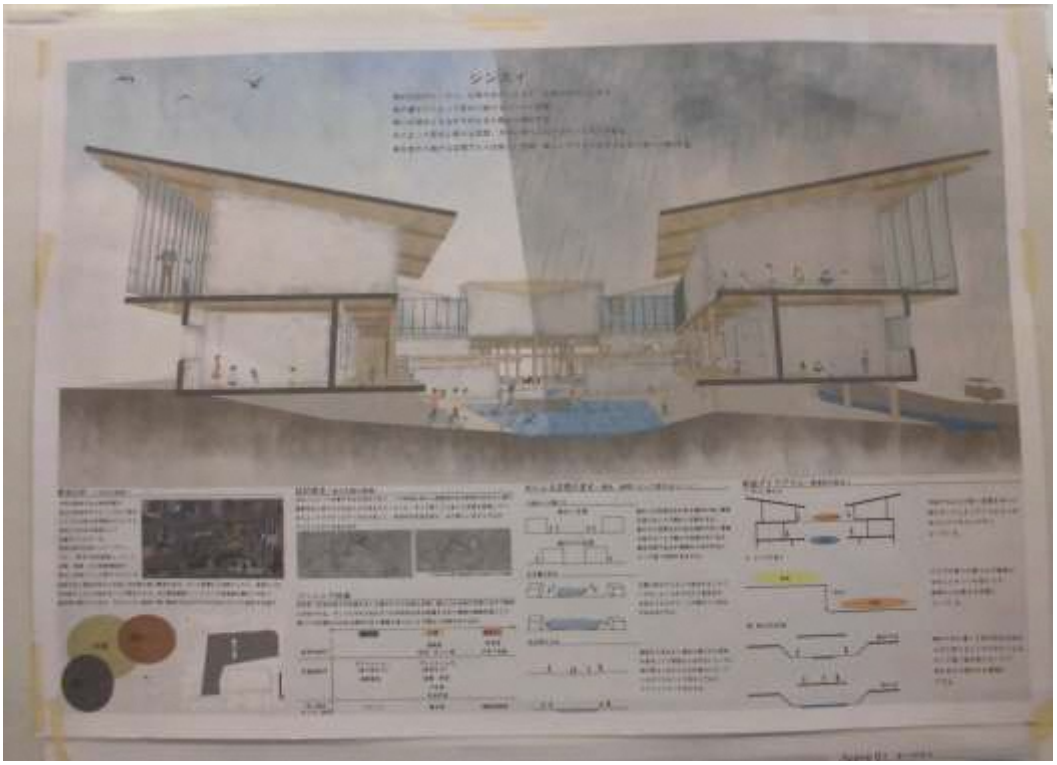
6 作品目への講評など:

阿部氏: 今、駅周辺で中に自由に入れる施設はフェリエくらいだと思う。この施設では、地域の皆さんが発表したり、ギャラリーを使えたりと、「見せる場所」のようなものができるとよい。

発言者 7: 西口の提案だと思うが、東口との徒歩での動線を拡充してもらえるとよいと思った。

阿部氏: 今回の提案には直接、含まれないが、東口と西口の繋がりはやはり課題だと思うので、東口と西口のそれぞれにどのような機能を持たせるかという視点は重要である。

（イ） 7 作品目



分水工へと琵琶湖の水を流している用水の水を使って楽しめる空間を作ろうと思い設計し

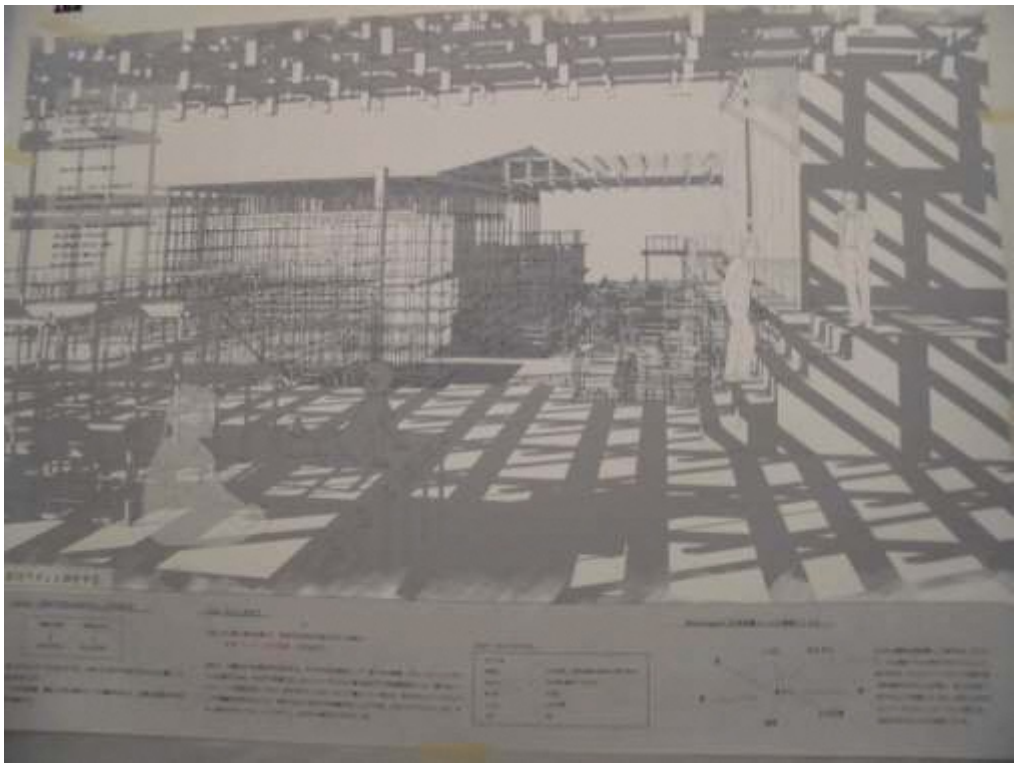
た。雨の日には、浸水する部分もあるが、子どもたちにとって楽しい空間となることもあると思う。そういう毎日変化のある空間をつくり、色々な交流を生もうと考えた。晴れの日は、水が溜まっているところ（真ん中）では、静かな空間として、水の中に人が入れないようにして外側を人に通ってもらうようにする。そのことにより、水によるにぎわいを出した。また、地域の人が通ってもらうところにはアトリエ空間や水上ギャラリーを置いて楽しんでもらうような空間とした。また、雨の日は、雨の音を聞く空間や、二階に雨の日だけに現われる水の空間をつくって、水のアクティビティを楽しんでもらおうと思った。この施設では浸水被害が発生しても使えるような空間を設計した。例えば老人ホームと児童の施設で同じような要素を持った空間があり、それらを一階と二階に分けて配置することによって浸水してその機能が失われたときに、違う階の施設を使えるようにしている。

7 作品目への講評など:

阿部氏: この提案は、大雨で浸水した時に子どもが遊んでいてもよいというような考えに基づくものではなく、浸水に対する危機意識を子どもに教えることができる施設になっているということである。そして、実際の浸水時には、しばらく避難して暮らせるようにもなっている。南草津駅周辺もハザードマップを見ると浸水が起こるように示されているので、公共施設ではそのための備えが必要になってくる。

発言者 8: 水の見える化、水の変化を見せながら、かつ雨水を利用し多様なアクティビティができるという点が非常に楽しく、興味深いと感じた。

（ウ） 8 作品目



コンセプトとして、「記憶の回想に未来のわたしが干渉する」ということを考えた。そこで、高齢者の記憶を継承するため、子どもと建築自体を記憶装置として機能させるようにした。高齢者が、子どもが昔ながらの遊び（けん玉や竹とんぼなど）で遊んでいるのを見て昔の自分を思い出すということ、また、子どもが、高齢者が幸せそうに暮らしている姿を見て、自分の未来の姿の片鱗を見るということをコンセプトとして組み立てた。また、遊びというものも特にジャングルジムというものをピックアップして考えた。そして、大人と子どものジャングルジムというものを構想し、大人と子どものコミュニケーションの違いということを考えた。そういったことを反映しながら、エドワード・T・ホールの考え方などを参考にして、建物における適切な距離感などを考慮した。

（エ） 9 作品目

南草津という新しい駅ができたが、元々住んでいた人と、新しく入ってきた人との関りが少ないように感じていた。また、西口のロータリーなどを見ていると、意外と車に依存しているまちであるということが分かった。そのため、地域の人々が安全に楽しく歩くことができる施設で、高齢者にとっては五感を感じながら過ごし、幼児にとっては五感を使って体を成長させることができる施設を考えた。また地域に住む人々も、視力重視の活動にとらわれている中、五感を使って活動できるようにと考えた。例えば、横断歩道を渡っていくと、調理室やオープンカフェなどがあり、人々が自然と施設の中に入っていくようになる。さらに、中には日本庭園のようなものがあり、また、色々な素材を使ってものが作れる工作室もある。他にも屋根に当たった光を反射させることで安全な歩行空間をつくった。

（オ） 10 作品目

コンセプトは、「子どもの心を育て、大人の心を癒す絵本」というもので、絵本を人々が繋がるツールとして用いて、施設内の人々だけではなく、市民や他の人々など色々な人々が入り交じる空間を目指した。絵本は、多世代の人々にとって楽しめるものになっていると考えられる。繋がり方としては例えば読み聞かせというものがあり、色々な楽しみ方があるというように考えている。市民の人々が使える共用スペースというものを施設内に分散させるように配置することで、森のように皆が行き来できる公共的な場所になる。機能としては、絵本美術館のような一面を持っており、ギャラリーで絵本を展示していたり、本棚が広がっている部分があったりと、市民の人々も美術館を楽しめる。形としては、一番上に、三つのリングがあり、傾きを地形と接続するように配置した。リングの内側には老人施設や児童館、保育園があり、それらを滑らかに繋いでいる。真ん中には、多様な機能を持つボックスが置かれている。これは木に例えられる。その下にあるものが敷地で、高低差があるのでそれらをなめらかに繋ぐように設計されている。このように森と絵本という要素によって、南草津に楽しくて温かい雰囲気が漂う複合施設を提案した。

8～10 作品目への講評など:

阿部氏: まちには、児童館や、老人福祉施設、保育園、他にも図書館や美術館、まちづくりセンター的なコミュニティなどが分散して存在している。彼らの提案では、そ

れらをくっつけたり、繋げたりしている。そういういくつかの機能が集まる場所があるだけで雰囲気が全く違ってくる。今までのまちの計画では、敷地ごとにそういった機能を管理している。なかなか、一緒にというのは難しいと思われるが、同じ敷地内に様々な機能があることで、利用しやすいし、車を使わなくても行き来できるようになる。

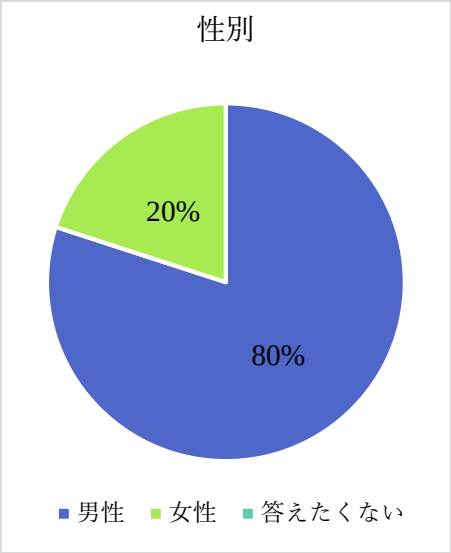
5. まとめ

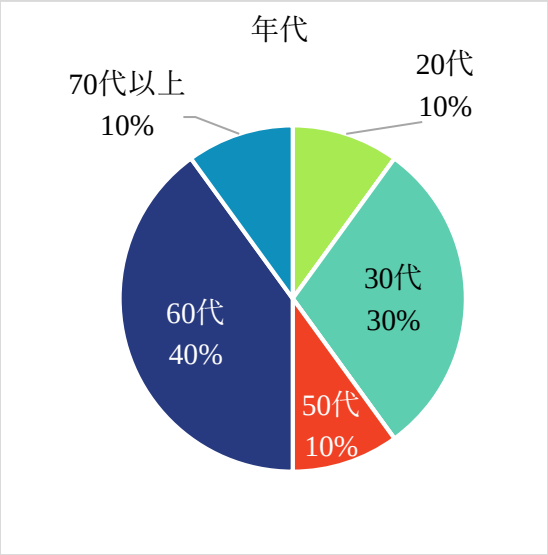
- 駅前の広場は、既存の円形分水工に緑地や水辺空間、また歴史的文脈から得られた発想などを加えることで、魅力的な空間が創出される可能性を持っている。
- 複合施設においては、多様な世代や様々な目的を持つ人々が集える場をつくることで、施設内外での交流が生まれたり、歩いて暮らせるまちづくりの推進にも寄与したりするように考えられる。
- 学生の自由な発想で構想された新しいまちの風景を地域の人々に公開する良い機会となった。
- 大学と地域を繋げる役割も有するアーバンデザインセンターとして、様々な主体同士の対話を推進していく機会を設けながら、新しいまちの風景を考えていきたい。

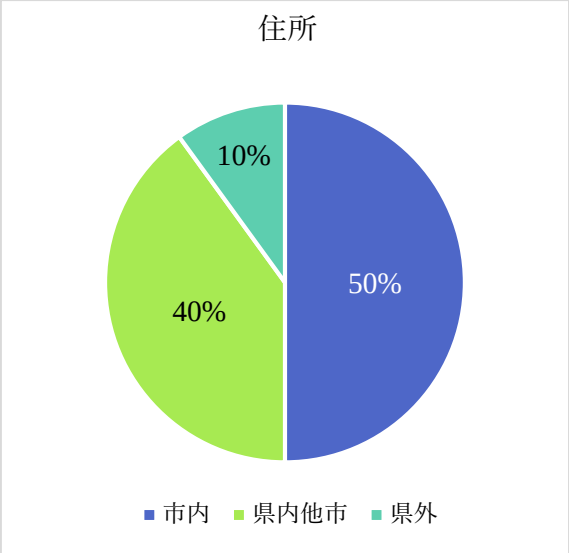
6. アンケートまとめ

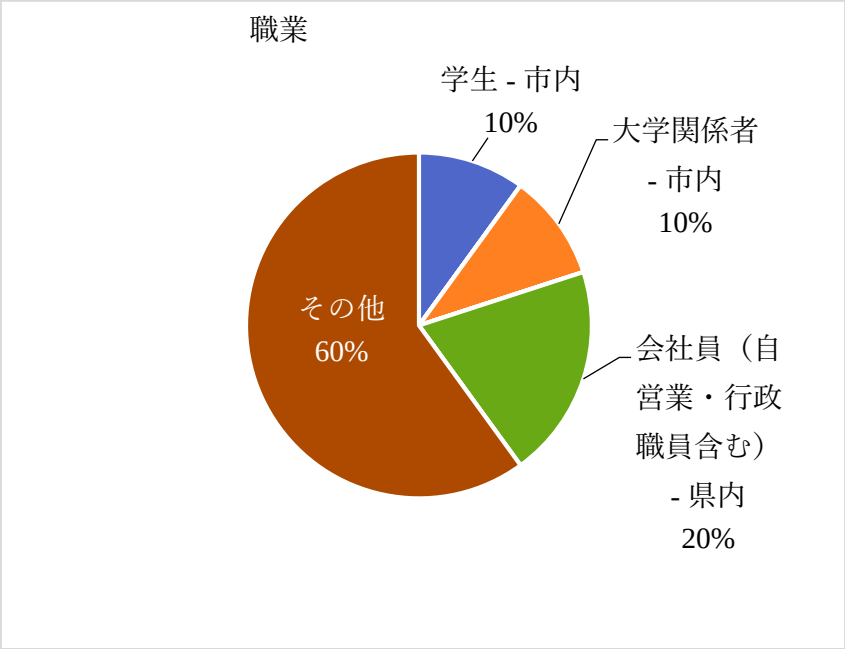
(1) 参加者属性

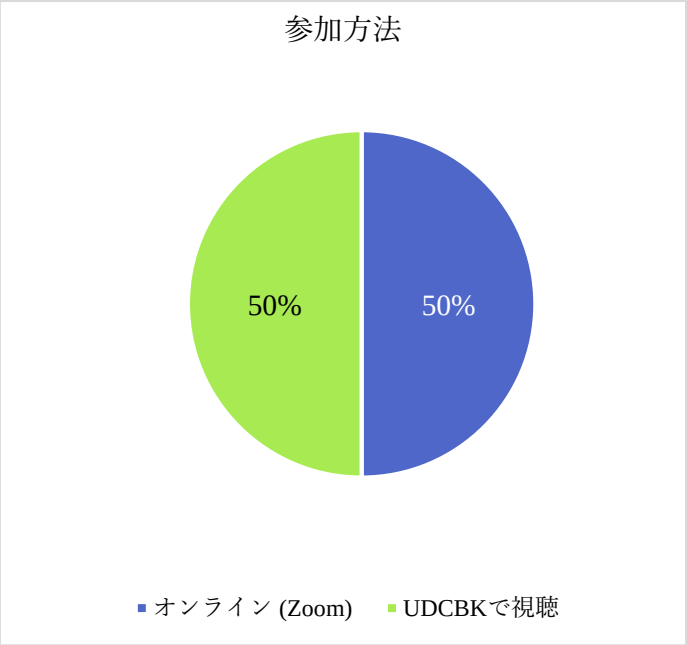
参加者 17 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 10 名、回答率は 59%だった。



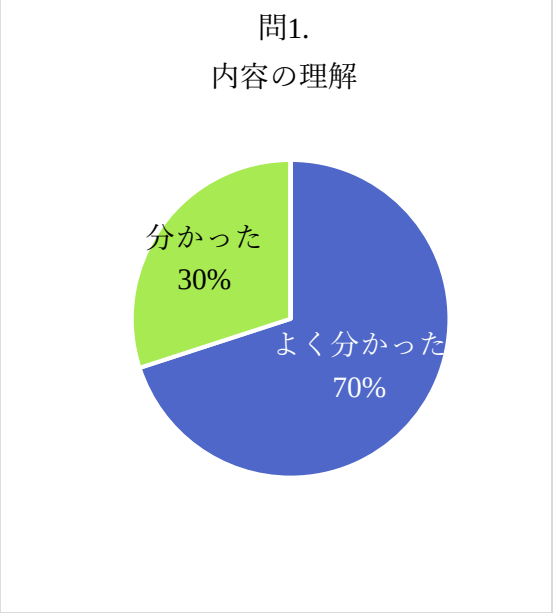


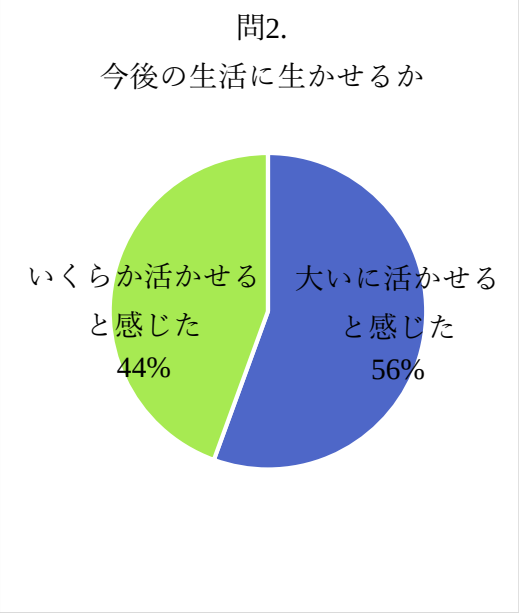


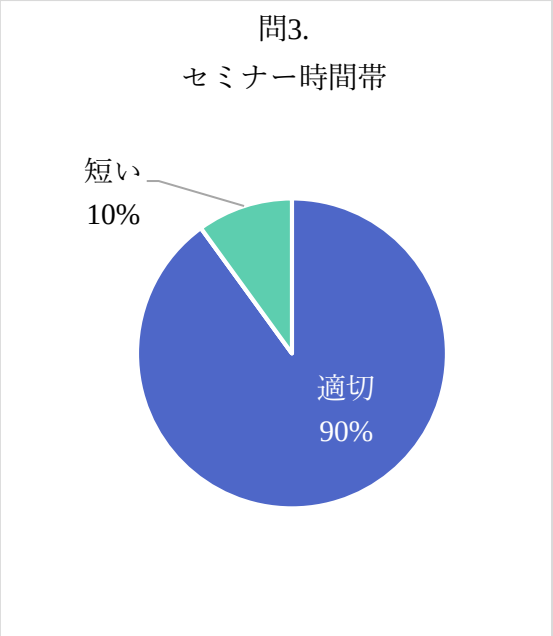

職業
学生 - 市内
10%
大学関係者
- 市内
10%
会社員（自
営業・行政
職員含む）
- 県内
20%
その他
60%

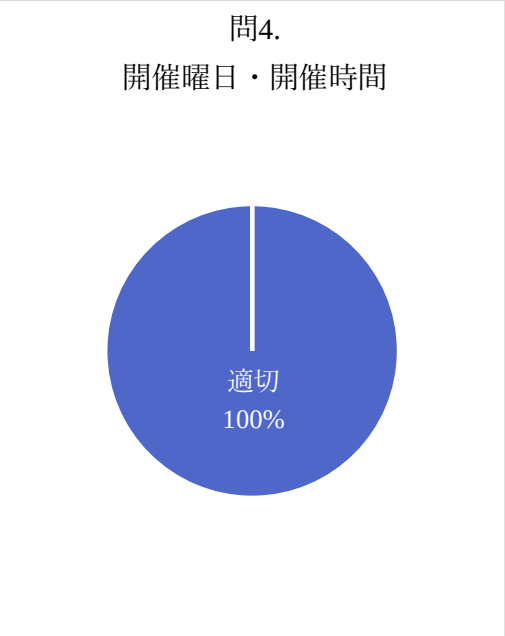

参加方法
50%
50%
オンライン (Zoom)
UDCBKで視聴

(2) 内容について









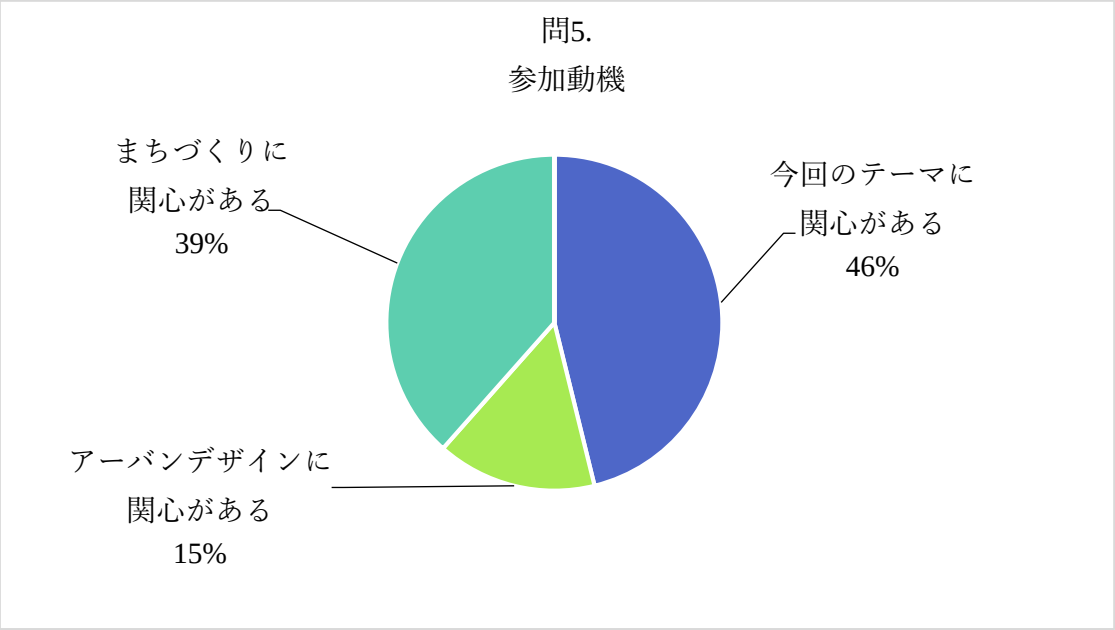
［自由記入欄回答］

問 3. 時間はどうでしたか。

回答なし

問 4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

回答なし



［自由記入欄回答］

問 6.　それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- 自由な発想でおもしろかった。今後活用できるキーワードもあり、参考にしたいと思います。(30 代男性）
- 立地適正化計画、地域公共交通計画、気候変動（60 代男性）
- まちづくり、公用空間、公共施設、プレイスメイキング（30 代男性）
- 公共交通、コンパクトシティ、立地適正化計画、景観（30 代男性）
- 今回のセミナーでの公共空間の利用を南草津にも活かすことができたらと思いました。（20 代男性）

【自由記入欄回答】

問 7.　今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- 南草津西口を特定して緑地基本の空間と複合施設の研究方法。月に何回か　半日程南草津周辺で過ごしてきて好きなまちです。これからどのように変化してゆくか楽しみです。感想はチャット欄に記載しましたが　今後の取組に期待したいと思います。一番最後と最後から 3 番目の発表の内容を模型で見てみたいですが、ポスター発表としてホームページでぜひ公開していただけたらと思います。学生さんの新鮮な考え方の中からヒントをいただきました。チラシ説明での社会実験の取り組み方と

対象に興味がありますが街歩き迄参加できるかどうかわかりませんが、座学だけでも参加させていただきたいと思います。（60 代男性）

- 学生さんが提案された、東山道公園の様々なデザインは印象に残りました。印象に残った理由は、どれも、私自身が草津市に引っ越してきた時に、最初に魅力を感じた、円形分水工を活かした様々なアイデアであったから、です。どれも興味深く、魅力的でしたが、中でも昔の田園風景をイメージしたものと、照明を活かした、夜の月を眺めることを提案されたデザインが印象に残りました。日頃、四季を通じて楽しませて頂いている、東山道公園を借景に、憩いの場ができればいいのにと思っていたので、お話を伺って、私の中でイメージが広がり楽しく伺うことができました。（60 代女性）
- 学生さんのイキイキした発表に勇気づけられました。（30 代男性）
- 素晴らしい発表でした。ありがとうございます。（50 代男性）
- 3 回生とは思えないしっかりとした提案でした。課題意識やコンセプトは詰め切れていないところもありましたが、ビジュアルや説明が分かりやすく、きれいでした。（30 代男性）
- 南草津でパブリックスペースの利用を実験的に行っているため。（20 代男性）
- どの学生さんもよく考えておられると感心しました。ただ、Zoom で視聴したこともあるのですが、画面では、パワーポイントの文字や数字が判読しづらく、描かれたデザインや作られた模型も見にくく、そこだけが残念でした。企画自体は大変よかったと思います。ありがとうございました。(60 代男性）